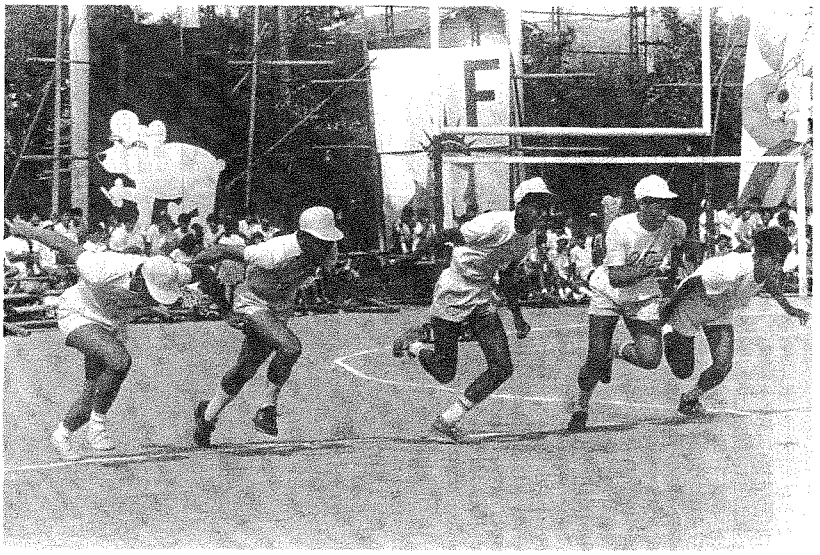
OUR DREAMS

芦高新聞

発行所
県立芦屋高等学校
出版部
兵庫県芦屋市宮川町6-3
TEL 0797—32—2325

記念祭特集号



記念祭
あっという間の五日間!!

体育祭
迫力満点

今年は、例年より早い九月二十二日に、記念祭開幕式及び体育祭が蒼り空の下行われた。

昨年は体育祭が雨のため途中で中止になるなど、二三年生、先生方の体育祭にかける期待は例年以上である。そのためか、グランドを飾っているデコレーション・ユニフォーム共に、各クラス前日までの努力の成果が表れたようだった。

全校生徒による芦高体操から始まり、男子団体競技では男らしい、激しいぶつかり合いで迫力、スピード感を見せ、女子団体競技では、可愛さ有り、女の争いの怖さ有りで観客を楽しませてくれた。

来賓・職員演技では、毎日教壇から厳しい目を向けている先生方を、この日ばかりは、反対に生徒たちが、見る番である。普段見られない姿で会場を笑いの渦にしてしまった。

走種目では、歴代の記録を塗り変える好タイムが出るなど熱戦が繰り広げられた。

クラス対抗リレーになると、もう言総立ちである。特に二年生ともなると、どのクラスも優勝を意識しているようだった。今年三年生男子一位の、二一Bは、「もう楽勝です。走る前から一位になる自信があった。」山瀬先生は、「体育祭のためにつくったようなクラスなんじゃないですか。楽勝」と語っている。歴代の記録を塗り変え一位、又、一年男子のクラス対抗リレーには、先生方を代表する、中井先生、佐藤さん、谷本さん、坂本先生、前田先生、赤松先生、山瀬先生が生徒に対抗して、チームを作り一斉にスタートした。・・・がそこでハプニング！第一走者、中井先生がバトンを落としてしまった。しかし普段生徒に教えているように、すぐバトンを拾い差をどんどん縮めていった。最後には、山瀬先生が一人抜きなかなかやるな、と思わせる一幕もあった。

こうして記念祭第一日目の体育祭は大きな盛り上がりを見せながら終了した。

記念講演会

去る九月二十四日木曜日午前十一時より、西宮市民会館において記念講演会が行われた。講師はNHK大阪放送局視聴者広報センター副部長、県立芦屋高等学校卒業生でもある玉居原作郎氏、演題は「ドラマ創りに夢をかけて」であった。校長先生の挨拶に始まり、講演が始まった。高校時代のクラブ活動の話や様々な思い出話をされた。そして現在の御自分の仕事であるドラマ創りの事へと話は展開した。今はなき夏目雅子さんの話が出、その夏目雅子さんがドラマのヒロイン役のオーディションを受けた会場に来られていて、玉居原氏は審査員として会場においられ、初め夏目雅子さんを見た時「人の目を引きつける魅力のある娘だ。」といわれたそうですが、「あのような大スターになるとは思いもしなかった。すばらしい人ですね。」と話され、「自分はオーディションの審査員として出席することがよくありますが、人を選ぶということは難しいものです。」と、実感を持って私達に話された。講演の最後には今度NHKで放送される朝の連続テレビ小説「はっさい先生」のPRを熱心にされた。およそ一時間半にわたる講演会であったが、話を聞いている我々の態度はあまりよいものではなかったように思われた。

クラス展示
努力の成果！

今回も一、二年は、テーマに沿った展示、三年生は自由参加となっていたが、三年生の参加クラスが多かったため、にぎやかなものとなった。

一年A組「未来都市」を作る—21世紀の私達の町を一人、一人の考えで模型にした。B組大きな「がく」を作る—縦2m、横4mの大きながくをテーマに基づいて作っていた。C組未来の学校—C組の人たちの想像で作った「未来の学校」。D組宇宙—宇宙、というとても大きなものをD組の考えで作った。E組Dream Park—テーマ"Our Dreams"に基づいて夢のある遊園地を作る。F組占い—トランプ、タロットなどを使って占う。壁には、模造紙に様々な占いを書いたものが、はってあった。G組はり絵—"海とメルヘン"というテーマではり絵を作っていた。H組世界の名所—世界の有名な場所の説明を詳しく模造紙に書いていた。I組Dream Ball—竹で骨組を作り青いビニールをはり、地球儀を作っていた。J組緑の未来都市—未来の緑の保存をテーマに"緑でいっぱいの未来都市"を模型で作った。これには"緑を大切にし、人間と植物とがうまく共存し合える未来を！"という願いがこもっている。二年A組どっきりDreams—芦高の生徒、先生を様々な手段でだまし、8ミリに撮って15分程度のものを作っていた。B組おもちゃのCHA!CHA!CHA!—様々な懐しいおもちゃを展示していた。C組心理テスト—模造紙に問題を書き、それに答えると自分の将来、性格がわかる。D組夢を大空へ…—空を自由に飛ぶという瞳れを少しでも実現するように熱気球を作っていた。E組昔の遊び—昔懐しいベーゴマ、ケン玉など"昔の遊び"をした。展示やお手玉講習会をしていた。F組写真館—トリックを生かした合成写真、風景写真を展示している写真コンテストや写真撮影会もあった。H組未来都市—これから変貌するであろう"地球"の未来について分析していた。G組びっくりハウス—教室の三分の一という狭いスペースでとても工夫をこらした"びっくりハウス"を作っていた。I組私たちの200X年—クラスの一人、一人が将来住みたい家を考え街を作った。J組ラブ・アタック—男の人が過酷な関門を果たしてかぐや姫のハートを射止めるもの。B組ライブ&喫茶—ステージでは、歌って踊り、喫茶店もしていた。C組コレをやらせりゃ芦高一！—「コレだけは！」と自信に支えられた人が技を披露し、わたがしもやっていた。D組THE・イベント—ホール—映画をメインにイベントホール、かき氷もやっていた。E組仮装フィーリングカップルときつさ—男子5人、女子5人でくり広げる。"LOVE CHANCE"飲み物などもあった。F組の自慢・かき氷・ジュース・的当て—運動部の人々が出演したのども自慢。かき氷もあった。G組女装コンテスト&駄菓子屋—男の人が一人、一人工夫して女装するもの。駄菓子屋もあった。H組お化け屋敷—狭いスペースで様々な工夫をこらしたお化け屋敷だ。全体を通して一、二年の展示は各クラス、テーマに沿って作ったすばらしいものが、たくさんあったが、その良さが作った人にしかわからないようだったので、見る方にしては、あまり興味がわかなかったようだ。みんなが参加し、みんなでつくっていく模擬店が、とても盛り上がっていた。しかし、どのクラスも、遅くまで残って一生懸命やったため、それが展示・模擬店に表れていた。

○総合成績　1位 3-A・B 46点、3位 2-E・3-D 43点
○学年成績
　1年　1位 A・I 41点、3位 E 38点
　2年　〃 E 43点、2位 C 39点、3位 B 35点
　3年　〃 A・B 46点、3位 D 43点
○100m
　男子…市長杯 3-A 今津秀文 15秒59
　女子…〃 1-B 小路かほり 19秒06
　　自治会長杯 2-E 中谷有紀子 19秒01
○200m
　男子…同窓会杯 3-D 北風裕希 27秒73
　女子…執行委員会杯 1-D 並川祐子 33秒80
○1,000m
　学校長杯 1-D 渡辺浩二 2分59秒
○クラス対抗リレー
　男子…1年 1位 G　2位 A　3位 I D G E
　　2年 〃 E(歴代4位) 〃 A F I H A
　　3年 〃 B(歴代1位) 〃 I D G E F
　女子…1年 〃 I B(歴代5位) 〃 H A
　　2年 〃 C 〃
　　3年 〃
○クラブ対抗リレー
　運動部男子 育友会長杯 2分14秒01
　　1位 ラグビー部 2分14秒13(歴代2位)
　　2位 陸上部 2分14秒13(歴代3位)
　　3位 サッカー部 2分14秒41
　運動部女子 育友会長杯
　　1位 陸上部 2分06秒10(歴代4位)
　　2位 バスケ部 2分08秒99
　文化部男子 1位 吹奏楽部 1分53秒67
　　2位 応援リーダー部 1分55秒04
　文化部女子 1位 吹奏楽部 1分07秒20
　　2位 コーラス部 1分07秒30

裏表独語

▼さすがに高校三年ともなると人生についていろいろ考えてしまうのだけれど特に"秋ねー"としみじみ感じるこんな季節にはもうダメ。悩むという事を通り越して、何だかわけもわからず悲しくなって、涙なんかが自然と流れたりしてしまうんだ。▼それで、最近よく思うのは、こんな生活でいいのかなぁって。目標を見失うと同時に自分まで見失ってしまって、何もかもが嫌なのに思えてくる。そういう時は物事を悪い方向にばっかり考えるから、どんどん自分で築穴を堀っていって、結局、逃げだす事しか考えられなくなってる。死にたい、なんて自分でも恐ろしい考えがふっと頭をよぎったりするけど、そこまでは踏み切れないし、だから余計にイライラして悪い事の繰り返しになってしまう。自分の性格のせいかも知れないけど、中には、こんな風な経験のある人もいるんじゃないかなぁ。▼でも、やっぱり、現実逃避は良くない。いつまでも自分独りの世界に閉じこもっていたら、それこそおかしくなってしまう。人と付き合っていう事は、ある意味で互いに見張り合っている事だと思うし、何よりも楽しいものだと感じるから。実際には、口で言う程簡単なものではないし、自分自身本当にそれが出来るかどうかは疑問だけど、現実から目を背けないで、自分から立ち向って行く勇気を持つ事が何よりも大切なんじゃないかな。▼記念祭も終り、二年生諸君には地獄の日々だけれど、一二年生も明日は我が身。高校生活が有意義なものになるようにも、ぜひ、今一度人生について考えてみてはどうですか。（るん坊）

文化部公演

すばらしい演奏＆演技

邦楽部

文化部公演の午前の部は、邦楽部による「ゴッド・ファーザー」で幕が上がった。この曲はみんなで演奏された。初め緊張したためか少しミスがめだった。一曲目が終わり二曲目「岬の灯台」は、一年生五人で演奏された。これはまちがいがなく、うまく演奏した。二曲目「湧きいづる力」だった。このころになると会場も静まっていた。この曲は十一月の近畿大会で演奏することになっている。そして最後の曲「炎」であった。この曲は、会場を魅了させた。十七弦と十三弦の音のかみ合いがよかった。そして、それぞれの意気があっていたように思われた。

コーラス部

コーラス部の公演は「DO RE MI SONG」で始まった。この曲は動きながら歌っていたので、すばらしかった。

次に映画〝オズの魔法使い〟より「Over The Rainbow」、〝マザーグースのうた〟より「にわのことりが」が合唱された。そして四曲目は「鮎の歌」が歌われた。

そして最後の曲、「夜のうた」は混声合唱であった。部員数十五名のうち男子部員二人という少なさであったが、それでもよくがんばり、すばらしい合唱であった。

落語研究部

落語研究部の公演は昨年に続いて連続二回目だった初めは弥生亭かるびすという女子が演じた。演じたものは「看板の一」であった。会場の人たちも大いに笑っていた。

次に演じたのは空単家貴公子という男子であった。

演じたのは「時うどん」であった。これも会場にうけがよく大爆笑であった。

今回はまず大成功であったように思われる。ただ今回は古典落語だけだったが、次には創作落語も聞かしてもらいたいものである。

演劇部

文化部公演午前の部最後は、演劇部による「わっと・あ・わんだふる・わーるど？」で締めくくられた。

記念祭前日の生徒たちの話しをもとにして作ったものだった。

最初は少しわかりにくかったが、劇が進んでいくにつれて音声のボリュームも大きくなり、熱の入った迫真の演技になっていった。

会場も笑いがたえなかった。そして最後になるにつれて会場の人々はその演技にのまれていった。

最後は「明日は記念祭よ、ただそれだけのことよ」のセリフでおわり幕がおり、みんな惜しみのない拍手をおくった。

放送部

今年の放送部の放送劇は「影のかなしみ」というオリジナルの劇だった。プロの声優顔負けの演技に、生徒達は動揺した様子で、歓声が飛びかった。失敗する事なく無事終わったようだが、観客が内容よりも、演じる人の話す口調を重視しているようで、関係者一同を少しがっかりさせたようだった。

ギター研究部

文化部公演午後の部は、ギター研究部の演奏から始まった。今年のステージは十一人で構成された二バンドであった。

初めは「Honey Dripper」が歌われた。この曲はヘビーメタルのノリであったので、非常に盛り上がった様子であった。また、「六本木心中」でもなかなかの迫力をみせた。その後、「ノトーリアス」ではボーカルが替わり、一層の盛り上がりとなった。その他、数曲が歌われ、フィナーレでは全員が一列に並んで手を上げて、拍手喝采となり、大成功に終った。

吹奏楽部

文化部公演の最後を飾ったのは吹奏楽部で、まさに最後に相応しい名演奏だった。

最初の曲「独眼竜政宗」で軽快に始められ、二曲目の「SUMMER DREAM」から盛り上がりを見せ、「Hold On Me」「Moving On」「追憶」「Voyager」と続いて、それぞれ曲に特徴があり、印象に深く残った。

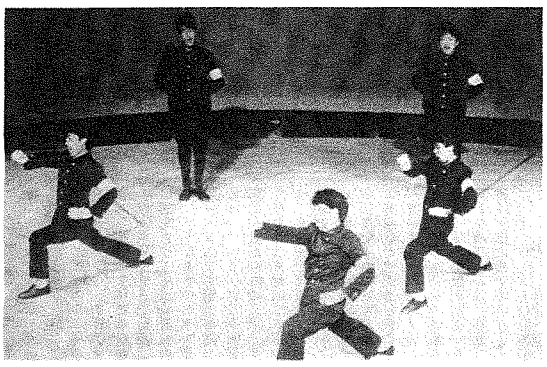
全ての曲が終了した後、観客の拍手によりアンコールが沸き起こった。アンコールの2曲目からは、少し強引で、文化部公演、最後の曲という事もあり、みんな疲れている様子だったがなんとか盛り上がった雰囲気で幕が閉じられた。

応援団

今年も応援団リーダー部では、非常に迫力のある演技の数々で観客を魅了させた。

最初はまず「応援歌」ではじまり、演技の前に司会者がユーモアたっぷりの語り口で観客を笑わせた後、「芦高囃子」で始まり、「カッパ拍子」「芦高団舞」「オール拍子」「芦高連舞」「三春の舞」などが行なわれ、最後は「校歌」で締めくくった。カッパ拍子などは、今では欠かせない技の一つとなり、観客は大いに満足した。

二十分という短い時間の中ではあったが、内容の濃い素晴らしい演技の数々には、心に残るものがあった。



部化文展示

盛り上がりに？

9月26日、27日に文化部展示が行われた。毎年衰退しているような文化部だが、活動している部は確実に向上している。部によって見に来た人の人数は、ばらばらであったが、全体的ににぎわっていたようだ。

アマチュア無線部では、コンピューターの活用のされ方や、パソコン通信等の展示であった。昨年にひき続き人気があったのは、コンピューター占いだった。

映画研究部では、今年も自作映画を上映していた。一日に一度、昨年の自作映画も上映していた。映画の中で、知っている場所・顔がたくさん出ていたので、みんなおもしろかったようだ。

化学研究部では、身近にある「石けん」・「ガラス」をもとにいろんな実験に挑戦した。

家庭科研究部では、今年は、みんなおそろいのエプロンを着て、パウンドケーキ・クッキー・ジュースを売っていた。見に来る人も多く、みんなおいしそうだった。部員の手芸作品も展示してあり、すばらしい作品ばかりだった。

華道部では、昨年と同じく生け花の出品だった。普段見かけないような、めずらしい花も生けてあった。

ギター研究部では、大教室でコンサートを行った。一年生もがんばっていたようだ。なかなか盛り上がっていて、見ごたえがあった。来年も期待できそうだ。

茶道部では、お茶会が行われた。饅頭・団子が用意してあり、また、出前もしてくれるというのがよかった。

史学研究部では、戦争展として、原爆の悲惨な写真や戦争の資料や模型が展示してあった。

写真部では、テーマを決めずに、部員が自由に撮影した作品をパネルにして展示していた。どれも力作だった。またアンケートも行っていた。

将棋部では、将棋大会が行われた。部員と挑戦できることや、勝てば賞品が貰えるなど、いろいろ工夫がなされていた。

生物研究部では、「もしもカエルに……」をテーマにいろいろな実験がされていた。また、その他に貝割大根の栽培などが展示されていたので、みんなおもしろかったようだ。

地学研究部では、今年もプラネタリウムの上映だった。カセットテープによる解説もついており、なかなかきれいだった。ほかには天文や火山などのことがくわしく展示してあり、化石もたくさんあった。

鉄道研究部では、マンネリ化から脱するために、レイアウトを車庫と駅を製作して、みんなの目を楽しませてくれていた。懸賞付クイズもあった。

美術部では、テーマにそった共同作品・静物画などバラエティに富んだ自由作品が展示されていた。作品の販売もしていた。

邦楽部では、みんなが、琴を弾いてもらえるように、一般開放していた。普段、関心のない人でも、楽しめたようだ。

漫画研究部では、一年生の短編が展示してあり、大きなテーマにそっての絵が展示されていた。また葉書と絵を販売していた。

落語研究部では、落語・贈答合戦・大喜利などをしていた。毎日の練習の成果がでていた。

放送部では、八台のスピーカーを使い、芦高トップ10のステレオ・コンサートを行なった。なかなかの人気のようで、ポスターのプレゼントもあった。

図書部では、「紙漉き」を行った。昨年に続き、二回目ということで、いいものに仕上がったようだ。

閉幕祭

最後を飾って……

今回で二十九回を迎えた記念祭もこの閉幕祭で幕を閉じる事となった。まず初めは記念祭歌斉唱、続いて校長先生からの話で始まった。次に、クラスで一生懸命、協力して作ったデコレーションの結果発表で、一位三年C組、二位一年A組三位三年A組となった。さすが三年間の慣れがあるためか一位・三位共に三年生であった。しかし一年生ながらも二位に入選するなど他のクラスもすばらしいものばかりであった。次は、去年とはちがい、すぐにフォークダンスに移った。今年のフォークダンスは強制で、全員踊ることになったが、執行部の誘導がもたつき、それに加えて生徒の自主性のなさなどがあり、始まりが遅くなった。最初は「オクラホマ・ミキサー」がかかったが、執行部の指導や頑張りにもかかわらず、生徒たちは一向に踊ろうとしなかった。次の曲は「My Revolution」最初はみんな、踊ろうとしなかったが、段々と少人数ずつだが踊り出し、最後にもなると、やっとほとんどの人が楽しそうに踊っていた。結局、楽しんで踊れたのは、約二十分間という短い間だけで、今年で最後となる三年生にとっては、少し残念なフォークダンスとなった。その後すぐに、ファイヤーストームに火が点火され、アトラクションに移った。最初にオーディションを勝ちぬいた〝Red is yellow〟の「らくだ」と「まっくろけ」が演奏された。ギター研究部の人が入っていないのにもかかわらず、なかなかの演奏ぶりだった。続いてギター研究部の人たちによる演奏が行われた。バンド名は〝Hareguin〟で、曲は「六本木心中」と「ラズベリードリーム」だった。そして〝岸上健一とゆかいな仲間たち〟によって「ONLY YOU」と「When you close your eyes」が演奏され、その後〝ぴんぴ〟の「雨上りの夜空に」だった。今年のアトラクションも去年と同様、なかなか盛り上がっていたようだ。そうしているうちに辺りも暗くなり、ファイヤーストームの火が一層綺麗になった頃、応援団リーダー部によって、自治会歌、応援歌、校歌を歌い、続いて記念祭旗降納が行われた。その後、記念祭当初から飾られていたネオンに、明かりがともされ、記念祭の幕を閉じた。

映画会

去る九月二十四日、西宮市民会館に於いて、映画鑑賞会が行われた。今年は、松本清張原作の「砂の器」であった。出演が、丹波哲郎、森田健作、渥美清などよく知られている顔ぶれだったため、初めは笑いがおこっていたが、あとになるほど、真剣に見ていた。この話は、殺人事件がおこり、二人の刑事が真相をあばいていくという単純なストーリーであるが、親子の愛の深さは感動的であった。中には泣いている人もいたようである。

ある日、殺人事件がおこり、犯人探しがはじまったが、殺された老人が、誰かもわからないなど、手がかりもなく捜査は難航した。店の従業員や雑誌記者の発言により、事件は少し解決へと向かった。そんな時、被害者の身元が、判明した。しかし、被害者は伊勢へ旅行に行ったはずだった。なぜ東京にいたのか、なぜ殺されたのか、まったくわからなかった。まだまだ、解決とは向かわなかったが、店の従業員が、言っていた〝カメダ〟というのは〝亀滝〟という土地の名で、被害者が、昔そこの駐在所にいたということがわかった。

そして、一人の名ピアニストが、犯人として浮かんだ。犯人には、隠された過去があった。子供の頃、父親と放浪の旅を続けた。その旅は、周囲の冷たい目や、差別ばかりであった。しかし、父親が、病気で動けなくなった時、助けてくれた巡査がいた。父親の病気のため、親子は離ればなれになった。巡査は、少年を育てようとするが、どこかへ行ってしまった。その少年が名ピアニストで、その後、被害者が巡査であった。過去をあばかれたくなかったため、殺したのであった。素晴しい演奏の後ピアニストは、捕えられた。

この話は、親子で放浪の旅を続けるシーンが、メインのようであった。親子が、別れる場面では、何かこみ上げるものがあり、感動的であった。最後に名ピアニストが、弾き上げた〝宿命〟は、ピアニストの生き方そのものであったように思われた。

子供達に笑顔を!!

身をもって知る

出版部では、今年の夏休みも毎年恒例のサマースクールに参加してきたがボランティア活動がどれだけ大変で、また大切なものかを、身をもって経験することができた。皆さんも福祉活動についての関心を高めてはどうだろう。

去る八月十日、北千里市民プール、北千里小学校の体育館に於て関西大学障害児問題実践研究サークル、〝ヤジロ兵衛〟・金蘭短期大学コミュニケーション部の「サマースクール」に参加した。この「サマースクール」は事前プール指導（七月二十八日）があった。その時は、初めてのことで子供達と慣れなかったため、少し抵抗があり、不安だった。しかし当日はボランティア全体の雰囲気にも慣れ、子供達とも自然に触れ合うことができた。私たちは、ボランティア活動に参加することにより、福祉活動の大変さ、大切さを教えられた。

七月二十八日は、南千里市民プールに於て、サマースクール事前指導が行われた。私達も、子供達も、初めて会う人に戸惑いを感じた。そのため、お互い馴染めなく、ぎこちなかった。プールに入ると、関西大学のボランティアサークルの方々に頼ってしまい、私達との交流は、あまり深まらなかった。プールに入る前は、一緒に体操し、プールの中では、水のかけ合いなどをして楽しんだ。休憩には、プールサイドで歌を歌った。ほとんどの子供達は、楽しんでいたが、中にはなかなか輪の中に入れない子供もいた。

当日（八月十日）、北千里市民プールと北千里小学校の体育館にて、サマースクールが行われた。事前指導の甲斐があり、最初から子供たちにうちとけ、ボランティア全体の雰囲気にも慣れていた。子供たちも私たちの顔を覚えてくれていて、戸惑いなども事前指導の時よりも、ずっと仲良くなれた。

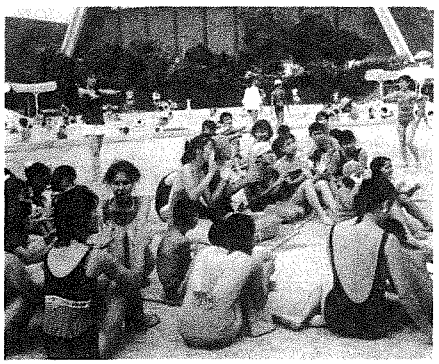
プールでは、まず子供達を水着に着がえさせてあげることから始まった。私たちが担当した子供たちは、みんなすんなりと着がえさすことができたようだ。プールに入ってからは、本当に楽しそうに〝ずべり台〟などいろいろなことをした。しかし、まだみんなの中に溶け込むことができない子供もいた。途中の休憩では〝かえるのよまわり〟や〝ごろごろたまご〟など全員で手で振り付けをしながら歌った。そしてプールの時間が終わり、次の場所である北千里小学校の体育館へバスで移動した。

体育館に着いた時は、すでに昼食の時間で、児童ら全員を「ホームランチーム」「かめさんチーム」、「モダン焼きチーム」という3チームに分けて、チームごとに担当の子供と共にお弁当を食べた。

食事が終わって、大学生のサークルの人達の「オズの魔法使い」という劇が始まった。劇の中で〝ちょうちょの国〟と〝ネズミの国〟というのがあり、それぞれの国ではゲームが取り入れられていた。子供達にとっては大変おもしろかったようで、楽しそうな明るい表情をしていた。しかし、ここでもまだ、みんなに溶け込むことのできない子供もいた。

毎年参加している大学生の先輩方は、物怖せず気軽に話しかけていたが、私達などは経験が少ないため、自分の担当した子供にしか手がまわらず、みんなの輪からはみ出している子供達には、話しかけることさえできなかった。

しかし、手馴れている大学生達と同じように仲間に入ることはできなかったけれども、その過程を見習い、今後、障害のある人に接する態度を、この子供達やその両親、また、一生懸命に世話をしている先輩方から学んだような気がした。そして、それは同情や哀れみから接するのではなく、私達と何一つ変わらない同じ人間として、温かい友情を持って付き合って行くことが必要であると感じた。



ヤジロ兵衛

ヤジロ兵衛が創られたのは十年前である。この名前は、一本の信念を通し、両腕に学生としての生活とボランティアの活動を持ち、右へ左へと傾きながら、自分達の道を貫き通すという所からきている。ヤジロ兵衛は吹田市内の小、中学校の精神薄弱児を対象とした学童保育を行っている。毎週月曜日は吹田、水曜日は千里ニュータウンで子供達と接している。一年間の主な行事としては、サマースクールのほかに春のハイキング、秋のハイキング、クリスマス会があり、このサークルのテーマは、「子供達の笑顔を増やそう！」でヤジロ兵衛の部員は、子供達を愛する心、人を思いやる心、自ら学ぼうとする心を持つ人ばかりである。

ベンチレポート　影の立役者達

野球部が、頑張っている中、影で応援に励む人達に目を向けてみた。尼崎記念球場で行われた対川西明峰戦では、ブラスバンドを混じえての応援であった。暑い中、重い楽器を持ってたいへんそうであった。しかも尼崎で遠いのにもかかわらずたくさんの人数であった。一方、応援団も学生服を着て、自分たちで作ったメガホンやプリントを観客に配るなどをして、応援を盛り上げていた。四回裏川西に一点を取られ、応援団も、より一層気合いが入った。応援歌や新応援歌などをいれ、かっぱ拍子も出て一生懸命だった。結局、ブラスバンドや応援団、観客の応援などの協力があり、六回表に一点を入れ、九回の表にはホームランが出て芦高は勝利をおさめた。

＊＊　＊＊　＊＊

高砂市営球場で行われた対高砂戦では、ブラスバンドはコンクールの前日だったため行けなく、応援団だけとなった。それに加えて高砂と遠かったため、観客が少なく苦しい応援となった。最初は、高砂高校の応援団とエールの交換で始まった。一回の裏で七点を取られたが、オール拍子や三・三・七拍子などを入れていっそう観客を盛りあげていた。しかし、芦高はなかなか点を入れることができず五回表になると、観客が全員立って応援をしていた。高砂の応援は、チアガールなどで華やかではあったが、応援団としての迫力は芦高よりも劣っていたようだ。試合結果は芦高が敗退したが、応援の出来は最高だった。最後は、「応援どうもありがとうございました。けれど、試合は負けて残念でした。来年は、もっともっと強くなると思いますので応援おねがいします。」という団長の言葉で終わった。終わりまで校旗を持っていた人、御苦労さまでした。そして、応援団の三年生の皆さん三年間、御苦労さまでした。

野球　夏の大会

毎年、全国の球児たちが、甲子園を目指す。今年は前年度を上回る三千九百校以上の高等学校が参加し地方大会が始まった。

去る七月二十三日、朝日新聞社・兵庫県高等学校野球選手権兵庫大会、芦高二回戦、対川西明峰戦が尼崎記念球場で行われた。晴天のもとで九時七分試合が開始され、一回両者とも三者凡退、三回まで無得点だったが四回裏、川西明峰の攻撃、二死から三番センター大角がヒットで一塁、続く四番キャッチャー銭間もねばって四球で走者一、二塁となり、五番サード椙野がレフト前にヒットを放って二塁走者がかえり、一点先取した。六番ライト大城もライト前にヒットを放ち満塁となったが、芦高ピッチャー岡本が踏ん張り、七番セカンド奥田を三振に打ち取り、ピンチを脱した。が、芦高も六回表、一死から一番サード鈴江がレフト前ヒットで一死一塁、二番セカンド藤原が送りバント成功で二死二塁、そして二塁走者が盗塁して二死三塁となり、三番レフト福井があわやホームランかと思われる強烈なツーベースヒットを放って三塁走者がかえり一対一の同点に持ち込んだ。八回まで両者無得点のまま向かえた九回表、芦高の攻撃、打者四番北田が一ボールからの三球目、レフトスタンドにソロホームランを決め、二対一で芦高の勝利となった。土壇場に北田の放ったホームランが最終的に決勝アーチとなった。

＝芦高顧問談＝

今回の試合は、本来の芦高の力を十分発揮することができたのでよかった。満点です。

＝芦高主将談＝

勝って最高です。部員みんなのおかげだし、とてもうれしいです。ホームランは自分でも信じられませんでした。

＝芦高校長談＝

一学期の練習試合で二連敗したにもかかわらず今回の試合で勝てたのでよかった。主将がよく頑張ったと思う。

＊＊　＊＊　＊＊

去る七月二十五日、高砂との試合が高砂球場に於て行われた。

まず、一回表芦高無得点、その回裏、高砂の攻撃一番生嶋がデッドボールで出塁、二番横山がヒットを打ち出塁、その間盗塁などで二死二・三塁から四番中川が手堅くスクイズし、まず先制の一点を得た。続く橋本から猛打爆発、増田、稲岡と連打が続き二点を加点、なおも二死満塁の好機、続く九番東は、このチャンスを逃さずライト前にヒット、中川がかえって一点追加。その後、二アウトから八番稲岡のヒットで増田もホームを踏んできらに一点加点。しかし一塁アウトで二塁残塁。二回表、九対〇と離された芦高は九番山村をフォアボールで出し、打順が一番に戻り、鈴江が送りバントをして四番中川を二塁に進め、またもや高砂チャンスを迎えた。さらに六番増田がライトオーバーへヒット、中川がかえって一点追加。その後、二アウトから八番稲岡のヒットで増田もホームを踏んできらに一点加点。しかし一塁アウトで二塁残塁。二回表、九対〇と離された芦高は九番山村をフォアボールで出し、打順が一番に戻り、鈴江が送りバントをして四番中川を二塁に進め、三振と続き、またもや無得点。その裏高砂が一点を加え十対〇と引き離され、五回までに得点を上げれなかった芦高はコールド負けし、三回戦高砂の前に倒れた。

部員から一言

▼二千円おとして下さい（一点差で補習セーフになった男）

▼ミ・ス・・・

名物先生シリーズ（新任編）前田先生の巻

名物先生シリーズ第5弾今回は、生物の前田先生です。前田先生は、今年の春尼崎市立小園中学校から転任されました。では、前田先生にインタビューしましょう。

出版部（以後、出と称略）「どうして、先生になろうと思ったのですか。」

前田先生（以後、前と敬称略）「テレビの〝スクールウォーズ〟を毎週見ていると泣いて青春していたので、おれにはこれしかないって思って……」

出「ふ～ん。では、先生になる前は、何をしていたんですか。」

前「普通のサラリーマンしてた。」

出「サラリーマンから先生になってよかったと思いますか。」

前「うん。思う。生徒と話をしたりするのが、おもしろいし、楽しいから。」

出「芦高に来て第一印象はどうでしたか。」

前「男女かわいい。おとなしいし、素直。」（そうかなあ）

出「趣味は何ですか。」

前「えー、こまるわ。うーんと、ジョギングかな。毎日はやってないけど。」

出「じゃあ、学生時代のクラブは何だったんですか。」

前「中学の時は、野球部。」

出「えー、じゃあハゲだったんですか。」

前「そうや。でもな、昔はかっこよかったんだぜ。」（みんな疑いの目を向ける）

出「では、高校、大学は。」

前「高校は、テニス部、大学はサークルで、バルーン研究会。」

出「高校の時、テニスしてたから、軟庭の願問なんですね。」

出「先生は、一年生といっしょに、野活に行きましたよね。フォークダンスはどうでしたか。」

前「楽しかったよ。」（やっぱりとみんな納得）「何故みんな踊らなかったんでしょうね。本当は、踊りたいくせに・・」（ブツブツ）

出「踊った人も、いたんですよ。けっこう・・」

出「先生はやらしいと聞きましたが、本当ですか。」

前「中井先生には負ける。」

出「中井先生ですか。そんなこと言うと怒られますよ。でも、前田先生もやらしいんですよね。」

前「まあ、それも俺の魅力の一つさ。」（笑）

出「先生って年より若く見えますね。三十一才だそうですけど、どうしてですか。」

前「〝自分は若いんだ！〟って思ってる。でもな、高校時代の友達に会うとしぶくなったと、言われる。」

出「それでですか。」

前「高校の時なあ、外人に会っても英語で話せるっていう自信があったのに、いざ話しかけたら〝私、英語しゃべれません〟って言って逃げたっていうはずかしいことがあった。」（大笑い）

出「それは、かなりはずかしいですよね。」

出「結婚についてのご意見を。」

前「結婚はする。」（キッパリ）

出「えー。じゃあ相手いるんですね。どんな人ですか。」

前「いや。死ぬまでに一回はする。」

出「なぁんだ。じゃあナンパはするんですか。」

前「しない。」（うっそーとみんな）「出会いを大切にするんだ。」

出「へぇ本当は、ロマンチストなんですね。」

前「うん。そうだね。」（言い変えて）「そうかもしれない。」

出「もし、高校生と結婚するとしたら、それでもいいですか。あっても、年の差がありますね。」

前「年の差なんて関係ないね。」

出「では、好みの女性のタイプは。」

前「性格が、オシャレな人。顔はあまり気にしないが、美人にこしたことはない。まぁ中肉中背で、足は細い方がいい。」

出「じゃあいい奥さん見つけて下さいね。」これからの自分に期待することは何ですか。」

前「燃えるような恋がしたい。身も心もこがすような恋がしたい。」（沈黙）

出「がんばって下さい。どうもありがとうございました。」

Welcome LIZ !!

Question

1. Name?
   Elizabeth Relton. People call me Liz.
2. Your birthday?
   12th November 1964 – any presents are welcome.
3. Your blood type?
   Most people in England do not know their blood type.
4. Your hobby?
   Swimming, Tennis and Billiards — I love billiards Movies andPhotography.
   Lion Taming since I came to Japan, I've started learning Karate.
5. Your like Japanese food?
   Sushi and tempura. I had only eten Nori before I came to Japan and I had never used Hashi. I like Japanese food very much.
6. Your dislike Japanese food?
   Nothing. Japanese food is very oishii.
7. Ashiya highschool impression?
   Ashiya H.S is a very exciting and unusual school. I like the students not wearing uniform. Most students are friendly to me and talk to me. Especially in the cafeteria. I'm happy to come here every Thursday.
   Please come and talk to me when you have time.
8. What do you think your character?
   What a difficult question! I like enjoying myself. I like traveling and meeting different people. talk a lot and smoke a lot.
   I like rain. I wear big earrings and I like black music – hiphop, rap and reggae.
9. What do you think Japanese?
   Many Japanese people have been very kind to me since I came to Kobe, especially the students. Japanese students are more friendly than the English Japanese people work very hard which is difficult for me.
10. Do you have boy friend?
    Many. I can't remember all their names. They are all in England. I don't have a boyfriend in Japan.
11. What do you learn Japanese language at first?
    The first Japanese words I learnt were 'biru kudasai' and think these are very useful. I'm trying to learn Japanese but I don't have much line to Study.

Thank you very much.

部説

記念祭を考える

今年は第三十九回記念祭が行われたが、日数の都合で例年よりも少し早目に九月二十二日から二十七日までの五日間であった。

今年の記念祭のテーマ〝OUR DREAMS〟であったわけだが、私達はこの記念祭を通して未来に望む夢を託すことが出来ただろうか。

さて、去年の体育祭は雨で中止となったが今年は、無事行うことができ、それぞれの力を競い合うことができた。また、デコレーションやユニフォームでは、今までと少し違って独創性が強調されており、クラスの団結も深められたことであろう。

二日目は、芦高卒業生の玉居原作郎氏を講師に迎えて記念講演会が行われた。学ぶべき所も多く、私達にとっては有意義な時間だったはずである。ただ少し残念な事は、聞く態度というものが身についていなかった事である。私達はもっと高校生としての自覚を持つべきである。

講演会だけにかかわらず、展示、文化部展示があったが、自治会展示では、今年も一・二年生はテーマに沿って、三年生は自由という形をとって行われた。今年はテーマが〝我々の夢〟ということもあって、未来や宇宙を題材にしたクラスが多かった。しかし、一・二年生での展示では、ごく少数の者だけで進めていた様で、クラス全体の和が図れたかどうかは疑問である。もっとクラス全体で協力し合えたならば、もっとすばらしいものを作り上げれたに違いない。

賞会や文化部公演にも見られたと言えるだろう。嬉々来ているんだから、という受け身的な態度で取り組むのではなく、聞くことに自分も参加しているんだ、という意識を高めることが、必要なのではないだろうか。記念祭だけではなくふだんの学校生活にも言えることではなかろうか。

四・五日目は、自治会展示、文化部展示があった。自治会展示では、今似たような事は、映画鑑

文化部展示でも、活気に欠けていたようである。毎年言われているように、近年文化部展示が、衰退しつつあることの現われであろう。展示はしているものの、それが形だけのものになってしまい、日頃の努力の結果とは言い難かったように思われる。それと同時に一般生徒の方でも、派手で面白い展示ばかりに流れて行く傾向があった為、文化部展示が停滞気味になったのだろう。

人それぞれ記念祭の受けとめ方は違うだろうけれども、少しでも意味のあるものにして行く事が大切だろう。

ちょっと一言～食堂について～

食べ物のおいしい季節になりました。この季節、スポーツの秋、読書の秋などと言いますが、やはり食欲の秋がぴったりだと思います。気候も緩やかになるぶん胃袋も緩やかになるのかとどまるところを知らず、ついつい食べてしまいます。土曜日など下校時に食堂の近くを通るとおいしそうなにおいがぷーんとしてきていふらふらと階段を降りていってしまうのです。見るとカウンターには黒山の人だかり、しかも圧倒的に男子が多いので肩身の狭い思いをしますが、それでも誘惑に負けてその人だかりに入っていきます。こんな時、悲しいかな人間の食欲というものが、なんて醜いものなのだろうと感じます。でも、物には順番というものがあるのだから、後から来て順番ぬかしをしたり、後ろから押しまくったりしていいというものではないでしょう。せっかくお昼御飯だというのに、こんな事で気分を害したくありません。どうせ食べるのならおいしく食べたいものですから。

また、食べた後も、気持ちよく出て行きたいものです。セルフサービスの食堂だから当然自分で食器を片付けなければならないのに、テーブルの上に置きっぱなしになってることがときどきあるようです。食堂のおじさんやおばさんにとっても迷惑だし、後から食べに来た人にも不快感を与えてしまいます。片付ける際にも、ただ食器を積み上げたらいいというのではないので、ちょっとした心使いが必要だと思います。そして食堂を出る時に一言「ごちそうさまでした。」と声を掛けるだけで自分も周りの人達もなんとなくさわやかな感じがすると思います。あたり前のことですが、以外と言う人が少ないようなので、これから、そうしてみてはいかがでしょうか。

確かに〝食堂〟といえば、「狭い」、「暗い」、「寒々しい」などあまりいいイメージはありません。しかし人情味があふれていて、アットホームな感じがするという点においては、他の学校にない特長だと思います。一度ぐらいは、皆さんも食堂を利用したことがあると思いますが、このへんで食堂でのマナーについてもう一度考えてみて下さい。ちょっとした一人一人の心掛け次第で良くも悪くもなると思います。

芦笛第41号 投稿募集

刻もう君の高校時代

〔テーマ〕　制限なし
〔期　限〕　12月末日まで
〔寄稿方法〕　執行部隣りの出版部室まで持参下さい。

作文、詩、イラスト、写真、etc
どれでも歓迎！

どしどしお寄せ下さい!!

編集後記

さて、今回の新聞はいかがだったでしょうか。

夏休み特集号が遅れた為結局は、記念祭特集号と一緒に発行する事になってしまい、「いつの話題や！遅いぞ!!」とお思いの方も多々あることでしょう。今後は、ていねいに、かつ、スピーディーにをモットーに頑張りたいと思いますので、これからもどうぞ、よろしくお願い致します。

ところで、出版部では毎年サマースクールに参加しているわけですが、これがなかなか大変なもので、たくさんの事を学んだように思います。みなさんもこの新聞を通して、障害者の問題など、少しでも多くの事を感じとっていただけたら幸いです。

最後になりましたが、御協力頂いた先生方・生徒の皆様、本当に有難うございました。これからも御協力お願い致します。